

- 問1 集積回路（IC）は製品が小型で軽量ながら、非常に高価であるという特徴があります。このような特徴を持つ製品の製造工場が、立地場所として選ぶことが多い条件はどれですか。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
1. 迅速な輸送を可能にする、空港や高速道路のインターチェンジに近い場所
 2. 原材料の輸入や製品の大量輸出に便利な、水深の深い港がある臨海部
 3. 加工に必要な大量の工業用水を確保しやすい、大きな河川の下流域
 4. 製造過程で大量の電気を消費するため、発電所に近い安価な電力が得られる場所
- 問2 千葉県や三重県、岡山県などの太平洋ベルトに属する主要な港湾周辺では、原油を精製する製油所と、そこから得られるナフサを原料とする複数の工場がパイプラインなどで結ばれた生産拠点が形成されています。この拠点の名称として正しいものはどれですか。（2026年 青森県公立入試 類似）
1. 石油化学コンビナート
 2. 内陸工業団地
 3. エコタウン
 4. 先端技術産業集積地
- 問3 島根県の石見銀山では、16世紀に「灰吹法」と呼ばれる新しい精錬技術が導入されたことで生産量が飛躍的に増加しました。この出来事が当時の日本や世界に与えた歴史的背景・影響として最も適切な説明を選びなさい。（2025年 和歌山県公立入試 類似）
1. 銀の精錬に大量の石炭が必要となったため、周辺の島根県一帯で炭鉱開発が進み、日本におけるエネルギー革命の先駆けとなった。
 2. 大量の銀が産出されたことで、江戸幕府は世界で初めて金・銀・銅の三貨制度を確立し、鎖国下でも国内だけで完全に自給自足の経済を実現した。
 3. 鉄を精錬する技術が銀の精錬に応用されたことで、石見地方は日本最大の鉄砲生産地となり、戦国時代の合戦の形態を大きく変えた。
 4. 銀の生産効率が向上したことで、日本産の銀がアジアやヨーロッパとの取引における主要な支払い手段となり、世界経済に大きな影響を与えた。
- 問4 2018年の日本における米の輸入について、輸入割合が約44パーセントで第1位となっている国と、約36.8パーセントで第2位となっている国の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2019年 奈良県公立入試 類似）
1. 第1位：タイ、第2位：アメリカ
 2. 第1位：アメリカ、第2位：中国
 3. 第1位：アメリカ、第2位：タイ
 4. 第1位：タイ、第2位：オーストラリア
- 問5 都道府県別の発電量を示した資料において、千葉県が8万3932百万kWhという突出した数値を示している発電方式があります。この発電方式の施設が、多くの場合、海岸沿いの臨海部に立地している理由として最も適切なものはどれか、次から選びなさい。（2023年 熊本県公立入試 類似）
1. 山間部から流れてくる急峻な河川の水の落差を利用して、タービンを効率よく回すため
 2. 内陸部よりも日照時間が長く、海面からの反射光も利用して発電効率を高めることができるから
 3. 海外から輸入する石油や天然ガスなどの燃料を、大型船で直接運び込むのに便利であるため
 4. 騒音や振動による周辺住民への影響を抑えるため、人口の少ない広大な埋め立て地が必要だから
- 問6 日本の自動車メーカーなどの製造業において、1980年代半ば以降、工場の海外移転が急速に進みました。その主な理由と、それによって国内の産業が衰退してしまう現象の名称を組み合わせた説明として、最も適切なものはどれですか。（2026年 岐阜県公立入試 類似）
1. 商品の価格を抑えるために人件費の安い国々へ生産拠点を移したことで、国内の生産活動や雇用が減少する「産業の空洞化」を招いた。
 2. 国内での商品の需要が急増したため、供給を間に合わせるために海外へ生産拠点を分散させたことで、国内の生産額が増加する「産業の活性化」を招いた。
 3. 国内での原材料不足を解消するために資源の豊富な国々へ工場を移したことで、国内の技術力が向上する「産業の高度化」を招いた。
 4. 円安の影響で輸出が有利になったため、より多くの製品を作るために海外工場を建設したことで、国内の工場が閉鎖される「産業の集約化」を招いた。
- 問7 富山県の立山連峰にある黒部ダムのように、日本の大規模な発電施設が険しい山間部の谷間に建設される理由として、地形の観点から最も適切な説明はどれですか。（2016年 山口県公立入試 類似）
1. 広大な平坦地が確保しやすく、大型の発電タービンを多数設置できるから。
 2. 海岸沿いに位置しており、燃料となる石油や石炭を輸入するのに便利だから。
 3. 急峻な山地が多く河川の勾配が急であるため、効率よく水の落差を得られるから。
 4. 火山活動が活発であり、地下から噴き出す高温の蒸気を利用しやすいから。
- 問8 1980年代半ば以降の日本の自動車産業に関する統計において、国内での生産台数が横ばいであるのに対し、外国に工場を建設して現地で組み立てを行う割合が急増しています。このような生産形態を何と呼びますか。（2025年 岐阜県公立入試 類似）
1. 加工貿易
 2. 輸入促進
 3. 地産地消
 4. 海外生産
- 問9 日本の工業において、生産拠点の海外移転が進むことで発生する「産業の空洞化」に関する説明として、その背景と影響を正しく述べたものはどれですか。（2025年 愛媛県公立入試 類似）
1. 都市部への急激な人口集中により、地方で工場の労働力が不足した結果、国内の製造業が維持できなくなり生産拠点を海外へ集約した。
 2. 製品の付加価値を高めるために知識集約型産業への転換を図った結果、国内の製造現場では高度なロボット技術が導入され、雇用が大幅に拡大した。
 3. 科学技術の発展により、経済の重点が製造業からサービス業や情報通信業へと移行した結果、国内のすべての産業において生産額が増加している。
 4. 安価な労働力や広大な土地を求めて企業が海外に進出した結果、国内の工場が閉鎖され、地域経済の停滞や雇用の喪失が課題となっている。
- 問10 日本の農業では、生産者の高齢化や労働力不足が深刻な課題となっています。これに対し、ドローンやAI、自動運転技術を活用した「スマート農業」の導入が進められていますが、この技術導入による利点と背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2024年 長野県公立入試 類似）
1. 自動運転技術の導入は、1時間あたりの作業面積を縮小させる代わりに、より多くの人員を現場に配置するために行われている。
 2. ドローンやAIを活用することで、農薬散布や水管理などの作業時間を大幅に短縮し、限られた人数でも効率的に作業を行うことができる。
 3. 先端技術を導入しても作業負担の軽減にはつながらないが、農作物の販売価格を大幅に引き上げるために必要な手段となっている。
 4. 熟練した農家の勘や経験のみを継承することを目的としているため、先端技術の導入による作業時間の短縮は重視されていない。
- 問11 特定の地域に酒蔵や焼き物などの産業が多く見られ、それらが「地域の原材料調達や技術と密接に結びついている」と説明される産業の成り立ちについて、その特徴を述べた文として最も適切なものはどれですか。（2018年 大分県公立入試 類似）
1. 地域の資金や原材料を活用し、古くからその土地に根ざして発展してきた。
 2. 大消費地である都市部に隣接し、海外から輸入した原材料を加工することを主としている。
 3. 高度な情報通信技術を利用するため、製品の輸送に便利な空港や高速道路の近くに工場を集積させた。
 4. 経済のグローバル化に対応するため、安価な労働力を求めて海外へ生産拠点を移転させている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 迅速な輸送を可能にする、空港や高速道路のインターチェンジに近い場所	集積回路（IC）は、製品が軽量で付加価値が高いため、輸送費が価格に占める割合が低くなります。そのため、船による大量輸送よりも、スピードが重視される航空機やトラックによる輸送が選ばれます。このような理由から、物流の拠点となる空港や、陸上輸送の要所である高速道路のインターチェンジ付近に工場が立地する傾向があります。これに対し、鉄鋼業や石油化学工業などは、重い原料や製品を扱うため臨海部に立地します。
問2	答え 1 石油化学コンビナート	「結びつく」という意味を持つロシア語に由来する言葉で、関連のある複数の工場が生産効率を高めるために近接して配置された産業拠点を指します。特に日本の臨海部では、海外から輸入した原油を加工してプラスチックや合成ゴムなどの原料を作る石油化学コンビナートが、日本の化学工業の中核を担っています。
問3	答え 4 銀の生産効率が向上したことで、日本産の銀がアジアやヨーロッパとの交易における主要な支払い手段となり、世界経済に大きな影響を与えた。	灰吹法は、鉛を用いて銀を抽出する高度な技術であり、これにより高品質な銀の大量生産が可能になりました。当時、中国（明）では銀が貨幣として普及しており、日本産の銀は博多などを通じて東アジア交易の鍵となりました。また、ポルトガルなどのヨーロッパ諸国もこの銀を求めて日本との南蛮貿易を活発化させるなど、石見銀山は単なる国内の資源地にとどまらず、当時のグローバル経済を支える中心地の一つでした。
問4	答え 3 第1位：アメリカ、第2位：タイ	2018年の統計によると、日本の米輸入量は全体で672千トンです。その内訳は、アメリカが44%と最も多く、次いでタイが36.8%となっており、この2カ国が主要な輸入相手国です。中国は9.2%で第3位となっています。
問5	答え 3 海外から輸入する石油や天然ガスなどの燃料を、大型船で直接運び込むのに便利であるため	日本は火力発電の燃料となる石油や液化天然ガス（LNG）、石炭などの資源のほとんどを海外からの輸入に頼っています。タンカーなどの大型船が接岸して直接燃料を陸揚げできる臨海部は、輸送コストを抑えることができるため、大規模な火力発電所の建設に非常に適しています。
問6	答え 1 商品の価格を抑えるために人件費の安い国々へ生産拠点を移したことで、国内の生産活動や雇用が減少する「産業の空洞化」を招いた。	1985年のプラザ合意以降、急速な円高が進んだことで日本製品の海外での価格競争力が低下しました。企業は生産コスト、特に人件費を抑えることで商品の価格を低く保ち、競争力を維持しようとして生産拠点を海外へ移転させました。その結果、日本国内の工場が閉鎖されたり、製造業の雇用が失われたりする「産業の空洞化」が深刻な課題となりました。原材料の不足や国内需要の増加が移転の主な直接原因ではありません。
問7	答え 3 急峻な山地が多く河川の勾配が急であるため、効率よく水の落差を得られるから。	水力発電の発電量は、水の量と落差の大きさに依存します。日本アルプスのような標高の高い山岳地帯は、急な斜面を利用して大きな落差を作り出すことができるため、水力発電所を建設するのに適した条件を備えています。また、北陸地方などは降水量や積雪量が多く、水源が豊かなことも理由の一つです。
問8	答え 4 海外生産	1980年代、日本の輸出拡大に伴いアメリカなどとの間で貿易摩擦が激化しました。これを受け、日本の自動車メーカーは輸出を抑える代わりに、消費地に近い外国に直接工場を建てて生産・販売を行う「海外生産」へとシフトしました。これにより、現地の雇用を創出し、貿易摩擦を回避する狙いがありました。
問9	答え 4 安価な労働力や広大な土地を求めて企業が海外に進出した結果、国内の工場が閉鎖され、地域経済の停滞や雇用の喪失が課題となっている。	産業の空洞化は、企業が生産コストを下げるために海外へ進出することによって引き起こされます。国内の製造業が衰退（製造業衰退）することで、それまで工場が支えてきた地域の雇用や関連企業への発注が減り、経済的な悪影響を及ぼすことが問題視されています。
問10	答え 2 ドローンやAIを活用することで、農薬散布や水管理などの作業時間を大幅に短縮し、限られた人数でも効率的に作業を行うことができる。	日本の農業は担い手の不足が大きな問題となっており、少ない人数でいかに効率よく生産を行うかが重要になっています。ドローンによる農薬散布や、AIを用いた水管理は、これまで手作業で多くの時間を費やしていた工程を自動化・迅速化させるため、作業負担の軽減と時間の短縮に直結します。
問11	答え 1 地域の資金や原材料を活用し、古くからその土地に根ざして発展してきた。	地場産業は、その地域独自の資源や歴史的な背景をもとに成り立っています。地域の資本（資金）によって運営され、地元の原材料を加工し、古くから伝わる技術を継承しながら発展してきたのが特徴です。これに対し、輸入原料に頼る臨海型の工業や、輸送の利便性を重視するIC（集積回路）工場などは、異なる立地条件を持っています。